

令和7年度「一市町村民会議一運動」活動紹介

輪之内町青少年育成町民会議

1. 新事業「ウェルビーイング in わのうち」の推進

本町では今年度より、心身共に良好な状態を目指す「ウェルビーイング」の概念を導入した。これは一時的な幸せに留まらず、生きがいや人とのつながり、長く続く幸せを大切にする考え方である。コロナ禍や少子高齢化、多様化する価値観の中で、今一度「地域での学びや支え合い」を見つめ直すべく、青少年育成、文化、スポーツ、社会教育、コミュニティ・スクール等の各活動を統合し、全世代が関わり合う先進的な取組としてスタートさせた。



2. 具体的活動内容と成果(中学生ボランティアの活躍)

今年度は、地域行事に中学生がボランティアとして積極的に参画したことが挙げられる。

(1) 地域・学校行事への貢献

「ふれあいラジオ体操」、各区での「三世代交流事業」に加え、各小学校で開催された「ふれあい運動会」や諸活動の運営補助に中学生が参加した。小学生や地域の方と触れ合うことで、中学生自身が「地域を支える一員」としての自覚を深めている。

(2) スポレク祭「中学生未来塾×にほんごひろば」

中学生が企画段階から運営まで主体的に手掛け、多文化共生や世代を超えた交流を自らリードした。会場設営や受付等でも中学生の力が不可欠なものとなり、活気に満ちた開催となった。

3. 青少年健全育成大会の実施

上記事業の一環で、輪之内町青少年健全育成大会としてゴルゴ松本氏による講演会「命の授業」を開催した。

子ども園児の歌唱で幕を開け、幅広い年齢層が「命」や「言葉」の大切さを共有した。この大会には多くの中学生も聴講者として参加し、自らの生き方や心の在り方、そしてウェルビーイングについて深く見つめ直す、大変充実した学びの場となった。



4. 「あたたかい言葉エピソード」の募集

地域内の交流を深めるため、町民から「あたたかい言葉」のエピソードを募集した。日常の何気ない会話の中に溢れる思いやりを再発見し、共有することで、町全体の幸福度を高める取組を継続している。

5. 今後の展望

「できる人が、できるときに、できることを」という精神のもと、中学生の若い力と地域の知恵を融合させ、「細く、長く、みんなで！」幸せの循環を町全体へ広げていく。